

令和6年 第4回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏 名	件 名	要 旨	備 考
松岡 泉 [一問一答方式]	1. 学校教育での電子図書館の活用について	2024年度から、GIGAスクールに関わる学習用端末の更新が始まっており、今後のGIGAスクール構想では単に更新するだけでなく、ICT環境全体の進化を図ることが期待されている。 ICT教育による教育成果は、その活用方法によって決定づけられるため、教育資料が豊富な電子図書館の活用などについても検討すべきと考える。 (1) 学習用端末の活用状況と成果について (2) 電子図書館の活用について	
	2. 奨学金返済支援制度の導入について	地域人材の確保が困難となる中、若者が地方から都市部へ流出する傾向が強まっている。地方経済の活性化や人口減少の抑制のため、若者の流出防止には最善を尽くさなければならない。 とりわけ、奨学金返済支援制度は、そのための重要な施策の一つであり、町はその導入を検討すべきである。 (1) 地方における若者の流出防止について (2) 町の奨学金返済支援制度の導入について	
	3. 通学路の安全確保について	通学時の安全確保のための要件の一つとして、通学路の環境整備が挙げられる。そのため、通学路は良好な状態を維持し、不安全要素があるときは直ちに処置・改善を図る必要がある。芦屋中学校や芦屋小学校周辺の通学路の環境整備・処置状況について伺う。 (1) 通学路の管理状況について (2) 通学路の改善対応について	
本田 浩 [一問一答方式]	1. 芦屋町の安全・安心対策について	芦屋町の安全・安心な町づくり対策によって、地域住民が安心して過ごせる日々が守られており、今後もさらに安全・安心な町となることを私は願っている。そのような町づくりについて、町民の皆さまとの会話の中から、気になる安全対策の現状を知った。 そこで、住んで良かった町づくりの一環となるよう、次のことについて尋ねる。 (1) 小学生・中学生の登校時と下校時の通学時間帯の地域の見守り活動について (2) 地域の防犯体制の強化に繋がる「地域の目」であり地域防犯の要となる町民による見守り巡回警備について (3) 栗屋区公民館前の安全対策について	

令和6年 第4回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏 名	件 名	要 旨	備 考
萩原 洋子 [一問一答方式]	1. 中央グラウンドの改修について	総合運動公園中央グラウンドは今年度、バックネット前の水たまりやグラウンド中央部の陥没などで、改修工事のための設計を行っているが、グラウンドに設置されている時計も故障したままになっている。また、グラウンドにトイレはあるが端の方にあるため、高齢者の方からは安心して利用できるトイレの整備を求める声もある。そこで以下の点について伺う。 (1) 中央グラウンド改修に向けた進捗状況は (2) 今後、故障した時計はどうする考えか (3) 安心して利用できるトイレを整備する考えは (4) 今後のスケジュールは	
	2. 西方荒波対策について	柏原西方海岸は、平成27年度に北西からの荒波によって損傷した護岸の改修工事を行った。しかし、台風の頻発時期や冬期荒天時の荒波による影響は護岸の損傷にとどまらず、その周辺の住宅は荒波の被害を受け続けている。そのため、平成27年に自治区や遠賀漁協から荒波対策を求める陳情書が提出され、令和6年7月にも同様の要望書が再提出された。令和5年3月定例会の一般質問で早期の荒波対策を求めた際に町は「対策を講じる上で後戻りがないよう、関係機関と十分に協議し対策を推進する」と答弁した。そこで以下の点について伺う。 (1) 柏原西方海岸の荒波の状況は (2) 荒波対策の進捗状況は (3) 今後はどのように対策を推進するのか	
	3. 予算編成について	9月末に町の財政状況を示す健全化判断比率が公表され、町の財政は健全な状況であることや、モーターボート競走事業も好調を維持し、町の財政に大きく寄与していることが広報でも周知された。 しかし、経常収支比率の悪化や財政調整基金残高の減少、またモーターボート競走事業から一般会計への繰入額を7億円から10億円に増額しなければ予算が組めない状況になっている。そこで以下の点について伺う。 (1) 予算編成方針の概要について (2) 経常収支比率について	

令和6年 第4回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏 名	件 名	要 旨	備 考
田中 太 [一問一答方式]	1. 町営住宅長寿 命化計画について	全国的に高齢化社会が進む中、芦屋町でも高齢者比率が10月末現在で33%と高くなっている。 また、一人暮らしの高齢者も増加している。単身高齢者などが芦屋町に安心して住み続けられるようにするためには、これからの町の住宅政策がますます重要になってくると考える。 芦屋町町営住宅等長寿命化計画など住宅政策の詳細について尋ねる。 (1) 町営住宅の現状について (2) 2040年問題への対応について (3) 今後の計画について	

令和6年 第4回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏 名	件 名	要 旨	備 考
川上 誠一 [一問一答方式]	1. 遠賀川流域から出る海岸漂着ごみについて	11月18日の強風と大波により19日の早朝に柏原西方海岸に大量のアルミ缶やペットボトル等のごみが確認された。町は報告を受け迅速に対応し、漁協に協力を求め午前中に作業を進め漂着ごみの回収を行うことができた。 この間、漂着ごみが確認されても事業者の選定など時間がかかり作業を開始するときには漂着ごみの多くが潮の干満により海に流出する事案が多かったが、今回の町の対応は評価されるものである。 今後も機動的な回収を進めることから次の点を伺う。 (1) 今回の回収費用はどこから捻出しているのか。 (2) 漂着ごみのほとんどが遠賀川上流から流れ出たものであり、流域市町村で遠賀川水系水環境保全・再生推進協議会基金が作られているが活用はされているのか。 (3) 機動的な漂着ごみ回収を進めるために海岸漂着物回収費用を予算化すべきではないか。	
	2. ワンヘルス推進宣言について	10月22日芦屋町議会は福岡県職員を講師に招き「福岡県のワンヘルス推進に係る研修会」を行った。 NGO・世界自然保護基金(WWF)はパンデミックを防ぐ上で、健全な健康、人間の健康、動物の健康を一つの健康と考える「ワンヘルス」アプローチを提起している。具体的には、①感染症を拡散させる恐れのある野生動物の取引と消費を抑制すること、②森林破壊を防ぎ土地利用の転換を抑制すること、③持続可能な食糧の生産と消費が可能な社会に移行する必要性を訴えている。動物とヒトとそれを取り巻く生態系の健康を一つの健康と捉える「ワンヘルス」アプローチは、地球の未来、人類の未来にとって極めて重要な考え方である。 福岡県では令和3年1月5日にこの方向性に沿った、福岡県ワンヘルス推進基本条例が制定され、県内でも60市町村中29市町村長がワンヘルス推進宣言を表明している。郡内では岡垣町、遠賀町が宣言している。 そこで伺う。 (1) 海や川、山があり多くの生態系が生存する芦屋町こそ生態系の保全や、安全安心な食の提供、環境負荷の低減など「福岡県ワンヘルス推進行動計画」を実践する上でも「ワンヘルス推進宣言」を表明すべきではないか。	
	3. 狩尾岬沖の船舶座礁事故について	10月28日深夜、芦屋沖を曳航中の2隻の船舶が、海上が大荒れとなったため柏原漁港に緊急避難しようとしていたが、2隻とも浅瀬に乗り上げ座礁した。 早朝から海上保安庁や柏原水難救済会が乗組員の人命救助を行った。しかしその後、11月21日現在でも2隻の船舶は撤去されておらず、油の流出もみられる。 現場は港湾区域外ではあるが漁業者の生業と環境にも大きな影響が出ている。町の支援の考えを伺う。	

令和6年 第4回芦屋町議会定例会 一般質問通告書

氏 名	件 名	要 旨	備 考
辻本 一夫 [一問一答方式]	1. あしや砂像展の今後の在り方について	砂像展は観光あしやのイベントの一つとして開催してきたが、先日の大雨の影響により、砂像展の中止を余儀なくされた。県内唯一の砂像展の先行きを不安視している。 そこで伺う。 (1) 砂像展の魅力をどう捉えているのか。 (2) 砂像展は今後も継続するのか、それとも終止符を打つのか。	
	2. 山鹿排水機場の排水ポンプの処理能力について	山鹿排水機場の排水能力アップを図るため、国交省への要望を行っていると思うが、その進捗について伺う。 (1) 要望に対する国交省との折衝状況はどうなっているのか。 (2) 排水ポンプは、改修で対応するのか、新設で対応するのか。	
長島 毅 [一問一答方式]	1. 町民の生活習慣病の傾向と対策について	生活習慣病は、健康長寿の最大の阻害要因となるだけではなく、医療費にも大きな影響を与える。高齢化社会を迎え生活習慣病の発症予防、重症化予防対策は非常に重要である。 昨年12月議会でも質問したが、今回はより幅広い年齢層の健康状態について伺う。 (1) 令和5年度の特定健診受診率やメタボリックシンドローム率について伺う。 (2) 若年層（小・中学生）と若者健診世代のメタボ率（肥満率）また町職員の健康状態について伺う。 (3) 特定健診受診者の高血圧率、高齢者の高血圧率について伺う。 (4) 町内に設置されている血圧計について伺う。 (5) 町民の生活習慣病の傾向について町の見解を伺う。 (6) 健康づくりのPRについて伺う。	
貝掛 俊之 [従来方式]	1. 公営企業について	(1) 下水道事業の現状と課題について (2) ボートレース事業の現状と課題について	